

序章	こんなに楽しい職業はない	大隅良典	永田和宏	3
----	--------------	------	------	---

サイエンスの世界によろこそ	3
科学は人の営み	6
日本のサイエンスのいま	7
最初から専門を決めなくてOK	10
サイエンスは社会的な存在である	13

第I部 研究者の醍醐味——世界で自分だけが知っている 23

第一章	研究は「おもしろい」から	永田和宏	24
-----	--------------	------	----

選択はおもしろいほうを	24
やはり研究者になろう	29
ワンオブゼムではおもしろくない	32
種を時こうとするスタンスが基礎研究	38

研究現場は大股で歩け	41
ゼロから始めることで得る喜び	45
科学者は楽観主義であれ	47
おもしろさを追求できる自由	49
驚きと感動をこそ大切にしたい	50

第二章	一番乗りよりも	誰もやっていない新しいことを	大隅良典	54
-----	---------	----------------	------	----

終戦の年に生まれて、自然の中で	54
分子生物学との出会い	58
渡米、ニューヨークでの留学生活	61
人のやらないことをやろう	65
間違いなくおもしろい現象に出会った！	69
オートファジーに関わる遺伝子を特定	73
次々に明らかになる事実で世界を独走	76
その折々にベストを尽くす	83

第Ⅱ部 効率化し高速化した現代で

85

第三章

待つことが苦手になった私たち

永田和宏

86

知るために費やす時間 86

非効率な時間が興味を膨らませる 89

「思いがけない」が失われている 91

乗り遅れ症候群 94

与えられる知から、欲する知へ 97

〈知へのリスベクト〉 100

プロセスにこそ喜びはある 104

パラダイムを示してくれる人との出会い 108

素晴らしき「ヘンな奴ら」 110

第四章

安全志向の殻を破る

大隅良典

114

好きなことができていい? 114

研究者は何が楽しい? 116

研究とお金 118

科学者には多様性が必要だ 121

得意なことではなく苦手なことで決められる進路 124

研究者を育てる環境 127

議論する日常、閉じこもる日常 129

若者の特権と安全志向 132

失敗を恐れる必要はない 134

未知の世界は先が見えないからこそ楽しい 137

第Ⅲ部 「役に立つ」の呪縛から飛び立とう

139

第五章

「解く」ではなく「問う」を

永田和宏

140

答えられるより問えることが大切

140

いかに問えるか	145
答えの先に新たなる問い	147
すぐに納得しないで	152
孔子の過激な教育観	155
非効率な体験が想定外の対応力を養う	158
失敗へのチャレンジ	160
自分の仕事と同じように人の仕事をおもしろがれるか	163

第六章

科学を文化に

大隅良典

169

科学を身近に感じるために	169
終わりのない仮説と検証のサイクル	172
現代における科学の役割	175
まずは科学とは何かを考えてみよう	176
科学や技術の評価には時間がかかる	179
国に依存しない基礎科学研究の支援	183

終章

先行き不透明な時代の科学

大隅良典

永田和宏

189

先が見えない不安	189
大学の専門学校化	193
いい失敗と悪い失敗	195
ゲノム編集や再生医療	197
役に立たなくてもサイエンスには喜びがある	202
大隅財団という社会実験	210